

# ふるさと探訪

## 第68回 諏訪神社の獅子舞（小松町石鎚）



かつては多くの武具が納められていたという蔵の上方の斜面の大杉や、ツガ・トチノキ等の巨樹からなる社叢の中に鎮座する諏訪神社。谷川から聞こえるせせらぎの音が、静けさを際立たせています。

しかし年に一度、11月3日の秋祭り当日は、山を下りた地元出身者やその子どもたちも集まりにぎわいを見せます。

この日奉納される獅子舞は明治時代中期に妙口原から伝わったとされ、昭和56年ごろ小松町在住の石鎚出身者が結成した「石鎚獅子舞」の保存会によって演舞が守り伝えられてきました。その舞いは奉納のためのものであり、これまで神社の境内を出たことはありません。

現在は地域の出身者だけでなく、小松地区の子どもたちがなぶりこがなぶりこを務めています。昨年の秋祭りでも、1カ月にも及



苔むした石積みから見守る獅子舞は、時を重ねても昔のままに…



▲巨樹が茂るその奥に静かにたたずむ諏訪神社



▲ユーモラスな動きで獅子に対するひよっとこの舞い

ぶ練習を重ね、見事な舞いを披露した子どもたちの晴れ姿には、惜しみない声援が送られ、境内を温かい空気が包んでいました。

